

都難言協会報

東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会

児童・生徒の可能性を最大限に伸ばす 難言教育を目指して

東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会

会長 吉村 浩（東大和市立第七小学校校長）



令和六年度は、都難言協の創立六十二周年の年です。私は今年度の会長職を仰せつかり、歴史ある沿革の一端を担う重責を実感しております。これまで尽力された皆様の功績に敬意を表すとともに、これからの時代に合った変革にも対応しながら、本会の円滑な運営や、会員の皆様の難聴・言語障害教育の専門性の維持・向上に貢献できるよう努めます。

さて、東京都教育振興基本計画「東京ビジョン（第五次）」によると、現在、特別支援教育を受ける児童・生徒数は増加傾向にあります。特に、通級児童・生徒数は、十年前から約三・五倍に増えたことから、障害のある児童・生徒の能力や可能性を伸ばす教育の一層の充実が求められています。

このような中、私たちが果たすべ

き役割は、東京都特別支援教育推進計画（第二期）に基づく教育環境の整備、障害の状態等に応じたデジタルを活用した教育活動の推進、より多くの教員の障害への理解や対応力の一層の向上にあると考えます。中でも、教員の専門性や指導力の向上は、全国的に喫緊の課題ですが、都難言協にはこれまで築き上げてきた多くの研究や研修会があります。今年度もこの機会を大いに活用し、これまでの実績を更に深め、目の前の児童・生徒の可能性を最大限に伸ばす難言教育が展開できるよう、会員相互の協力をお願いいたします。

結びに、東京都教育委員会をはじめ、関係の皆様には、引き続き都難言協へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

❖ 新設学級紹介 ❖

品川区立豊葉の杜学園 きこえの教室（前期課程）

今年度、品川区立豊葉の杜学園前期課程（小学校）にきこえの教室が新設されました。豊葉の杜学園は、品川区の小中一貫教育を行う義務教育学校です。後期課程（中学校）にはすでに難聴学級が設置されており、この度、前期課程（小学校）にもきこえの教室が設置されたことで、品川区内の学校に在籍する難聴の児童・生徒の通級指導を本校で行うことになります。（現在、品川区には台場小学校にもきこえの教室がありますが、令和7年度末をもって閉級となり、本校への完全移設となります。）通級してくる児童も保護者も私たちも楽しく笑顔になる教室を目指していきます。



◆ 主な内容 ◆

- 一面 会長あいさつ 新設学級の紹介
- 二面 講演会
- 三面 第二回専門研究会 卒業生・保護者の声
- 四面 専門委員会より 研究会案内 他

都難言協
ホームページは
こちらから



<https://www.tonangen.com/>

講演会

読み書きに困難のある児童と保護者の支援
～当事者の立場から～

社会福祉法人正夢の会中野区療育センターゆめなりあ勤務

言語聴覚士発達性読み書き障害当事者

関口 裕昭 先生



伝えることができる。そして最後は待つことが大切である。何が困難であるかを理解して、できることに目を向けた時、初めて肯定的な諦めができ、前に進むことができる。

1 発達性読み書き障害とは

発達性読み書き障害とは文字を読んだり書いたりすることが苦手な障害のことを言う。ディスレクシア、難読症、読み書き障害など様々な言われ方をすることがある。

発達性読み書き障害を英語にする→Developmental Dyslexiaという。Developmentalには後天性のものではなく、恐らく生まれつきであるという意味を含んでいる。

Dyslexiaは直訳すると「読み障害」であるが、読めなければ書けないことが多いことから発達性読み書き障害と呼ばれている。

発達性読み書き障害は、十二人に一人ぐらいいるとされているが、知られていないことが多い。基本的特徴は文字の音韻化や音韻に対する文字の想起における正確性や流暢性の困難さである。

つまり、読み間違える、読むのが遅い、綴りを思い出せない、綴りを思い出すことが遅いということである。発達性読み書き障害の人たちは机の前で静かに困っていることが多

2 発達性読み書き障害の二次的障害

いため、見た目では分らず、努力不足と言われがちである。また、ADHDやASD等と併存することが多いため、行動特徴の方に注目が向きがちである。日本では発達性読み書き障害に対応できる先生や施設は非常に少ない。そのため義務教育の中で難言教員は一番初めに会える支援者であり最後の砦でもあると考えている。

・文章を読むのに時間が掛かったり、読み間違えたりすることによって起る読解の遅延

・努力しても成功体験が得られず、自信がなくなることによる、学習意欲の低下

・本などの文章を読みたがらず、語彙や知識の拡大を制限されることで起る知識不足
以上が大人になっても続くことがある。

3 支援についてのQ&A

・どんな支援の方法があるか
振り仮名をつけたり、読み上げ機能を使用する等、個々のニーズに合わせて方法や課題の量を調節していく。

・本人が配慮やツールの使用に抵抗感や拒否がある場合
皆と同じでありたいという気持ちを尊重しつつ、保護者と担当者だけでなく本人の意見も聞きながら対応を考えていく。

4 支援者ができること

まずは配慮や勉強法等の選択肢を提案する。次に本人ができることを確認し、できることを増やしていく。できることは自己肯定感の基盤になる。

そして本人と特性について共有すること。困難なことを理解するということとは難しいことである。これらのためには先生と本人との対話が重要になってくる。対話を通して苦手なことを理解していくと、本人から手伝ってほしいことをより具体的に

5 講演で伝えたいこと

・読みや書きが苦手ということは共感されにくいいため、発達性読み書き障害の方は、日常生活の中で緊張と不安が続いている。発達性読み書き障害を周りの人たちが知らないといけない子で終わってしまう。できないことには必ず理由がある。本人はいずれ気付くため、一人でも多くのの人に知ってもらい、安心できる環境を整えることが大切。

・学ぶことを好きでいるためには、学びの機会を保障することが重要。目の前の漢字を一つ覚えるよりも知的好奇心を止めないことの方が将来につながる。

・どんな道に進んでもよいのだということを伝えてあげる。訓練は大切だが、代償手段や、やらなくていい選択があるということを伝えてあげてほしい。

・当事者自身が特性を説明でき、周囲がそれを理解してくれる世の中を皆さんと一緒に作りたい。
(文責 本間 栞)

第1回
専門研究会

発達性ディスレクシアの

評価と支援

目白大学 保健医療学部 言語聴覚学科
NPO法人LD・Dyslexiaセンター

後藤 多可志 先生



定義・原因仮説

発達性ディスレクシアは学習障害（LD）の中心的な課題と言われています。生まれつき脳の機能や構造に問題があり、読み書きの正確性や流暢性に困難を示します。練習を十分行っても通常の方法では読み書きの習得が困難なため、生活年齢や知的能力に見合った読み書きのスキルを獲得することができません。

日本語話者の発達性ディスレクシアの場合、「音韻認識障害」「自動化障害」「視覚認知障害」の三つの問題の単独または複合であることが多いと言われています。

これらの認知機能について、適切に評価していくことが重要です。

評価法

発達性ディスレクシアを検出するためには、①全般的知能を検討する、②読み

書きの到達度を評価して、全般的知能や生活年齢から推定される読み書きの到達度よりも有意に低いことを確認する、③読み書きの習得に関与する認知機能（前項の三つのいずれか、もしくは複数）の弱さを確認する、の三点が重要です。また、発達性協調運動症、注意欠陥多動症、自閉スペクトラム症および発達性言語症の併存の有無についても確認することが重要です。

指導・支援

指導においては、①良好な認知機能を活用した指導を導入する、②自分に合った練習方法があることを対象児に知ってもらう、③対象児に努力することの楽しさを再認識してもらう、④対象児が自己肯定感を持てるようにする、⑤対象児のQOLの水準を上げ、望ましい形での社会参加を支援してい

く、の五点が大切です。

仮名（ひらがな・カタカナ）の読み書きについては、正確性・流暢性共に100%の習得を目指します。仮名の読み書きが十分習得できたら、漢字の音読練習から行い、音読・意味の説明の双方が可能になった漢字について書字練習を行います。漢字の音読練習と、漢字の書字練習は、分離して進めていくことが重要です。

学校生活の質を低下させないための支援として「合理的配慮」があります。例えば、試験時の配慮として、読めない漢字にルビを振る、問題文を読み上げる、試験時間を延長する、漢字で書かれていない正答への対応（ひらがなで書かれていても正答なら加点する）等が挙げられます。

（文責 藤井 暁子）



卒業生・保護者の声



〈卒業生〉

難聴学級では、自分の難聴のこと、補聴器のこと、日常生活のことを学び、学校生活で不安なところを手伝ってもらいました。受験では、面接の練習をしていただき、無事に合格することができました。今までありがとうございました。高校生活も頑張ります。

中学校
難聴

〈保護者〉

学校生活から受験までサポートいただき、大変感謝しております。交流会などの体験、難聴の理解等、たくさんのことを学ばせていただきました。難聴学級で学んだことを今後の人生に生かしてほしいと思っています。3年間のご指導ありがとうございました。



〈卒業生〉

ぼくは2年生の終わりから卒業までことばの教室に通っていました。教室では読み方、書き方の練習をしていました。先生がゆっくりやさしく教えてくれて、困ったことがあってもなんでも話せました。ぼくの好きなスポーツの話も一緒にできて楽しかったです。中学生になった今でもお世話になった先生たちのことを忘れません。これからもがんばります。

小学校
言語発達

〈保護者〉

5年間、先生方には子供だけでなく、保護者の私も大変お世話になりました。読み書きが苦手で、今後の進路に悩んだ時も、親身になって相談に乗ってくださいました。困った時に『助けてほしい』と、周りに言うことは恥ずかしいことではない、ということ。子供と一緒に大事なことを学ぶことができました。優しく、心に寄り添った指導をしていただいたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。長い間、成長を見守ってくださりありがとうございました。

専 門 委 員 会

■研究推進委員会

難言教育に携わる教員の専門知識や指導技術の向上を目指し、「専門研究会」「基礎研究会」「課題別研究会」「事例研究会」「ブロック研究発表会」を企画しています。児童・生徒のために、充実した研修・研究が実施できるよう努めます。

■調査・対策委員会

指導をより充実させるために、学級の実態を把握し、その時に生じた課題の解決に向けて活動していきます。

- ・基本調査の集計、結果の報告
- ・都・区市町村教委への「提案書」作成
- ・都教委との意見交換会
- ・関係団体との合同研究会記録等

■広報委員会

関係各位及び会員の皆様に役立つ、様々な情報を発信していきます。
・会報（年二回） ・紀要
・継走電話連絡網 ・設置校一覧
それぞれについてお気付きの点がありましたら、お知らせください。
また、ホームページに掲載したい事柄の相談も、お受けしています。

大会・学会・研究会などのお知らせ

*最新の情報はHP等でご確認ください。

**第53回全国公立学校
難聴・言語障害教育研究協議会全国大会
第48回九州地区
難聴・言語障害教育研究会**

沖縄大会

【大会主題】『これからの難聴・言語障害教育に期待されるもの』

【副題】『子どものよさを生かす支援のあり方とは』

【日程】令和6年8月9日（金）・10日（土）

【会場】那覇文化芸術劇場 なは一と

【問い合わせ先】嘉手納町立嘉手納小学校
〒904-0203

沖縄県中頭郡嘉手納町嘉手納312番地

TEL：098-956-2264 FAX：098-957-1655

E-mail：ks-sensei16@educ.kadena.okinawa.jp

第57回日本語言語障害児教育研究大会

【日程】令和6年8月7日（水）12:20～17:30

令和6年8月8日（木）9:20～15:30

【会場】国立オリンピック記念青少年総合センター

【問い合わせ先】FAX：047-400-6337

日本版KABC-II ベーシック講習会

【日程】令和6年9月28日（土）・29日（日）

【会場】林野会館

【問い合わせ先】E-mail：honbu-koushu@k-abc.jp



事務局より

今年度の事務局は、多摩北ブロックとホームページ運用のために多摩東ブロックから一名、多摩西ブロックから三名、そして次期事務局の城南ブロックの一名で担当します。

日々の通級指導を大切にしながら、研究活動が円滑に進むよう努力いたします。事務局として、笑顔を忘れずにそして前向きな姿勢で取り組んでまいります。ご理解、ご協力いただければ幸いです。

―編集後記―

ご多用の中、本会報作成にご協力いただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。

本会報が、難言教育に関わる皆様の情報共有や、日々の教育活動に対する一層のご理解を賜る機会となりましたら幸いです。

都難言協会報

代表者（会長）吉村 浩

責任者（広報委員長）佐久間 貴広

発行日 令和六年七月一日

発行数 六三〇〇部

印刷 有限会社 正陽印刷